

企業活動を支援する 仙台北部道路

- 仙台北部道路の沿線は、工業団地が複数立地する中で、全線開通により利府しらかし台ICから仙台北IC間の所要時間が半分以上に短縮するなど各方面へのアクセス性が向上し、企業や物流施設の立地が進展しました。
- 仙台北部道路は、各地へのアクセス性や内陸部～沿岸部への時間信頼性の向上により、東北の重要な物流拠点の集積地として大型物流施設の進出とともに、周辺の企業活動を支援しています。



▼仙台北部道路沿線の企業立地状況



※1 開発予定を含む
 ※2 沿線立地企業の抽出条件：2010年以降に沿線自治体（富谷市、利府町、大和町、大衡村、大郷町、仙台市）に1,000m²以上の用地を取得して立地した製造業企業
 出典：NEXCO東日本調べ、みやぎ企業立地ガイド（2022-2023）

沿線地域に企業立地が進展

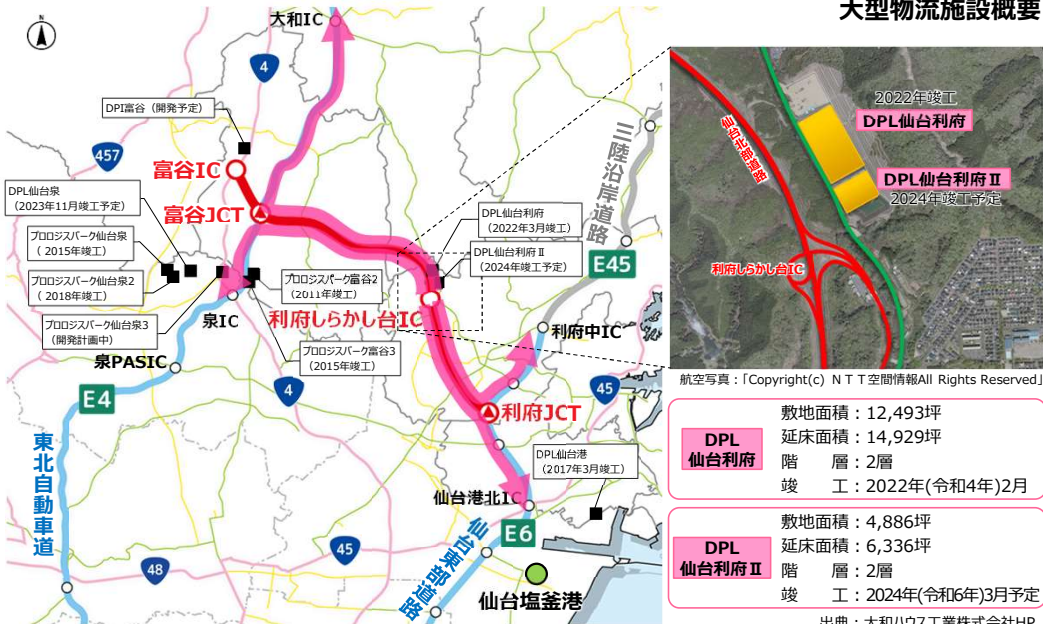
■沿線自治体の累計立地企業数（2001年-2022年）



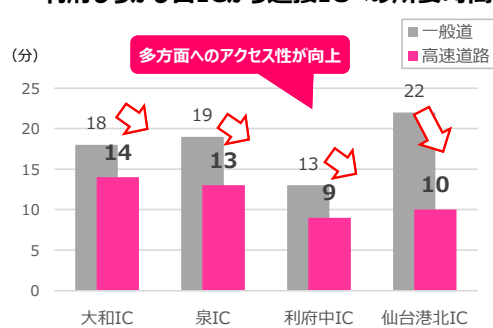
仙台市街地への近距離配送に加え、東北全域への中・長距離配送の効率化を支援

■仙台北部道路周辺的大型物流施設立地状況

■利府しらかし台IC付近の大型物流施設概要



■利府しらかし台ICから近接ICへの所要時間



周辺物流施設開発企業の声

- 仙台北部道路が一部を担う都・仙台は、都市圏環状道路として首都圏の環状道路と同一ような機能を担い、東北自動車道や沿岸部など多方面へのアクセスが可能。沿線の大型物流施設は、利府しらかし台IC近接であることが開発の決め手で、交通便利性の高さから予想以上のニーズがあり、隣接地に2施設目を整備した。
 - 仙台北部道路があることで、東北自動車道沿線から沿岸部へのアクセス性が向上。時間が読めることは物流の品質確保につながる。また、三陸方面にもアクセス性が高いため、誘致企業の拡大や今後の候補地の拡大が期待される。
- 出典：2023年企業にアテ調査

